

## 北海道 東川町



「写真文化首都」「写真の町」東川町からやってきました、ふるさと納税を担当しています吉原と申します。よろしくお願いいたします。

私たちの取り組みについて説明させていただきます。



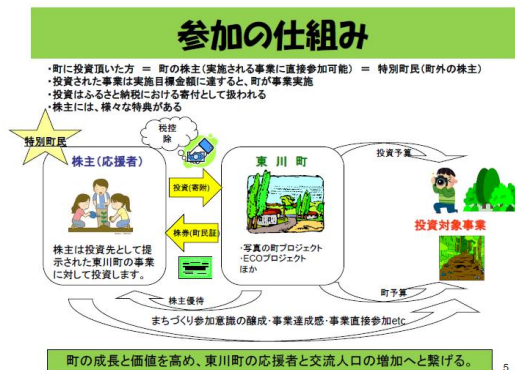
北海道東川町は旭川市の隣、北海道のほぼ中央に位置しています。人口が約8100人。わずかずつではありますが、人口が増えているという珍しい町です。それからこの町の最大の特徴ですが、町には上水道がありません。どうということかと申しますと、町民はみな自宅の地下にボーリングを20mくらい掘りまして、地下水をポンプでくみ上げて、それを飲んで生活をしています。毎日天然のミネラルウォーターが

飲めるという非常に神秘的な町です。

早速ですが、東川町の株主制度についてご説明させていただきます。東川の未来を共に作る株主制度ということで、なぜ「ふるさと納税」という言葉を前面に出さずに「株主制度」という名前にしたか。もともと東川町ではふるさと納税で財政をプラスにしたいということではなくて、町外の方、都市住民の方などとのつながり、交流をメインに考えていたからでございます。



具体的な流れといたしましては、この表の左側にあります、寄付者の方を「株主」と東川町では呼んでおりますが、株主さんの投資が元手となりまして東川町が掲げる7つの事業にそれぞれ一口千円という単位で投資をしていただきます。町はそれぞれ目標額を定めまして、目標額を達成しますと、東川町が責任をもって事業を実施する。そうしますと今度は東川町の価値が向上したり町が元気に、町が活性化致します。その活性化によって優待や感謝や感動といった配当をもって投資者のもとに還元をしていくという循環型の社会を目指したものでございます。



参加の仕組みは非常に簡単で、一口千円という単位で東川町に寄付をしていただくということになります。寄付をしていただくとみなさん株主さんということになりまして、同時に（町民ではございませんが）「特別町民」と位置付けさせていただきます。

## 投資対象事業

- 【写真の町プロジェクト】
    - ・写真の町整備事業（目標金額2億円）
    - ・オースターハウス建設（〃 3千万円）
    - ・写真甲子園映画化事業（〃 1億2千万円）
  - 【イコト プロジェクト】
    - ・自然政策路整備事業（目標金額50万円）
    - ・ひがしかわワイン事業（目標金額50万円）
  - 事業実施
  - 【ECO プロジェクト】
    - ・水と環境を守る森づくり事業（目標金額50万
  - 事業実施
  - 【子ども プロジェクト】
    - ・オリンピック選手育成（目標金額500万円）
  - 事業実施



投資対象事業としては、4つの大きなプロジェクト、「写真の町」プロジェクト、イイコトプロジェクト、ECOプロジェクト、こどもプロジェクトがあります。その中に細かい事業がありまして、全部で7つの事業を掲げております。最近では上から3つ目の写真甲子園映画化事業。東川は写真を文化にした町づくりを行っており、町では写真甲子園というイベントが開催されております。これが最近有名になってきておりまして、25周年の節目となる平成30年

の春公開を目指して映画化が決定しております。そこに1億2千万円というすこし大きな金額ではありますが、皆さんから投資を募っているところでございます。

## 株主の特典1



## 株主優待価格で利用可能な施設の一例

[illegible]

株主の特典ですが、株主になりますと全員に株主証が配られます。右側に株主優待価格で利用が可能な施設の一例がありますが、町内の公共施設は町民価格で利用できますし、町内の民間施設も13施設ほど株主優待価格で温泉などが利用できます。同時にこの一番左にありますように特別町民認定証というものを町内のクラフト作家に作ってもらった専用の額に入れて皆さんにお送りしております。株主制度という名前で行っておりますので、真剣な中に、こういった遊び心も加えて行っております。

## 株主の特典2



それから1万円以上投資をしていただいた方には、年間で6泊まで無料で宿泊でき



る宿泊施設もご用意しております。これはもともと公共施設だったものを改修しまして、株主さんのためだけの宿泊施設として運用させていただいております。非常に人気があります。

### 株主の特典3(株主限定企画)

#### 水と環境を守る森づくり事業

ECOプロジェクト:水と環境を守る森づくり事業

H27は株主総会を同時に開催



東川町エコ事業  
(H21、22、23、24、25、26実施  
(H27年10月18日実施))

株主の森

- 町内外の株主へ案内
- 町民との交流
- 歓迎昼食会
- 陶芸等体験

植樹に参加した株主は、自分で植樹した木々の成長に興味を持って、東川町の心の繋がりが作られる

株主さんの特典3つ目は株主さんじゃないと参加できない限定企画です。これは水と環境を守る森づくり事業です。東川町は上水道がございませんので、未来の子どもたちのために地下水を守っていく植林植樹活動を実施しております。これは今年でもう7年ぐらいになりますけども、今年は10月に開催いたしました。全国から120名の株主さんにお集まりをいただきまして、1100本のアオダモを植樹して実施しております。お昼は町内のお母さん方が作ってくれた東川産の野菜をふんだんに使った手料理。午後からは今年初めてとなりましたが、株主総会を開催しました。この中では当然、議決権はございませんけども、皆さんからいただいた投資を元手に東川町はこんな事業を実施しましたよ、ということを報告しました。そして職員の紹介など、すこしでも身近に感じていただけるような取り組みを行いました。

### 株主の特典4(株主限定企画)

#### ひがしかわ株主ファーム

##### 株主ファーム通信 Vol.1号

●農業の町として出来秋には、いちはやく大地の恵みを味わっていただく。

●稲やじゃがいも等の成長をお知らせし、オーナーとして収穫時期までの楽しさを感じてもらう。

●株主ファーム通信を年5回発行し、遠方にお住まいの方にも東川町を身近に感じてもらう。



それから限定企画の2つ目ですが、株主ファームというものがございます。これは東川町の大地の恵みを株主さんにも味わっていただくということで、春にオーナー料金をいただきます。出来上がりの段階でオーナー料金に合わせたお米や野菜をご自宅までお届けしているのですが、それまでの期間5~6か月くらいありますので、この右側にありますように株主ファーム通信ということで、みなさんからいただいた分の苗だとか、野菜がこんなに成長してきましたよ、とか東川町ではこんなイベントが今開催されますよといった紹介もさせていただいているところでございます。これは非常に人気で、募集をかけてすぐ1日で定員になってしまうほどの人気ぶりです。

### 株主の特典5(株主限定企画)

#### ひがしかわワイン

##### ひがしかわワイン通信 Vol.2 2015.10.8発行

●東川町の天然酵母を使用し、純ひがしかわ産にこだわり生産

●平成25年から中澤一行氏(ナカザワウインヤード/岩見沢市)、ブルース・ガットラブ氏(10Rワイナリー/岩見沢市)の栽培指導を受け栽培し、収穫した葡萄(セイベル)を10Rワイナリーで醸造しています。

●ワイン通信の発行と、少量生産で株主でなければ購入できないこととした



同様に東川ワイン事業も行っております。

## 投資の実績

[illegible]

それから、投資の実績ですが、7年間で  
おおむね2億円の投資をいただきました。  
株主さんも右下のほうにありますけど、7、  
915人。東川町の人口がいま8、100  
人くらいですので、間もなく株主数が東川  
町民の数を追い抜くのではないかと期待し  
ております。また、ふるさと納税が認知さ  
れてきたこともありまして非常に伸びてお  
り、今年度はおそらく1億円程度集まるの  
ではないかと思っております。同時に株主  
数も8000人を目標に今近づいてきてい  
るところでございます。

事業の実施例  
安田侃モニュメント整備事業



それから事業の実施例ですが、イタリアで活躍されている世界的に有名な安田侃先生のモニュメント整備事業というのが2年前に実施されました。左側にあります「帰門(きもん)」は渋谷区文化総合センターに設置されているブロンズ像になります。右側

に「意心帰(いしんき)」という白い大理石の石ですけども、これは東京ミッドタウン、東京国際フォーラムなどに設置されています。このようなモニュメントを東川町の小学校と、その横に併設されている地域交流センターに設置しました。将来子どもたちがもし東京に出てきたときに、「自分たちのふるさとにもこのようなモニュメントがあったな」というふうに思い出してもらえればと思っています。

## 事業の実施例



それから、東川町には旭岳という大きな山がありますけども、そこの自然は非常に厳しいので、自然散策路に木チップを引いたり、木橋が風化して傷んでしまったものを直したりといった事業も実施しております。

お礼の品 \_\_\_\_\_

東川町のイメージを大切に



最後になりますけれども、返礼品については、東川町は水がおいしいということで、



クリーンなイメージを損なわないようなホームページの掲載を心掛けておりまして、昨年度12月にいままで1品しかなかった返礼品も20品目に増やすなど工夫をしております。みなさんもぜひ一度東川町の株主さんになっていただいて、機会がありましたら東川町のほうにお越しいただければ幸いです。本日はどうもありがとうございました。

## 青森県 弘前市

弘前市のふるさと納税の取り組みをご紹介します。

「弘前城100年ぶりの大改修、一口城主が弘前の危機を救う」ということで取り組んでいます。弘前市は今年度、石垣修理のため動くお城として多くのメディアに取り上げていただきました。

青森県弘前市

弘前城天守曳屋



これはその時にふるさと納税の特典としてお城を引いていただいた写真になります。

まず弘前市と言えばこの弘前城、日本一の生産量を誇るりんご、そして世界一と自負している桜がごございます。



青森県 弘前市

どうでしょう。この一面の桜。弘前城のお濠の水面には、ピンク色の花びらが敷き詰められます。これは花筏と呼ばれていまして、「死ぬまでに行きたい世界の絶景」にも取り上げていただきました。あと2か月ちょっと4月23日からさくらまつりがスタートいたします。今年は、どんなサプライズが飛び出すのか、皆さんをお待ちしておりますので、体験しに来ていただきたいと思います。

青森県弘前市



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしています。TEL 0172-35-1194

初めに弘前市の位置をご紹介します。弘前市は青森県の南西部に位置し、八甲田連峰、青森県最高峰、津軽富士と呼ばれています岩木山、世界遺産である白神山地に囲まれ、400年以上の歴史を持ち、桜とりんごが有名な情緒ある城下町でございませう。四季折々に様々な風景を体験することができ、弘前四大祭りが皆様をお待ちして

おります。



春は弘前さくらまつり、約50種類2600本もの桜が弘前公園に美しく咲き誇ります。夏には弘前ねぷた祭り、光で彩る武者絵がまちを練り歩きます。秋には、弘前城菊と紅葉まつり。全国一の生産量を誇るりんご一色となりますが、桜の葉も紅葉し、「さくらもみじ」を堪能できます。そして冬は弘前城雪燈籠まつりです。真っ白な雪の中に幻想的に輝く燈籠やイルミネーションに包まれます。



まちなかにもいろんな顔があります。まち並み、自然、農産物、食など豊富な資源に囲まれた魅力あふれる街でございます。旧弘前市立図書館、そして五重塔もございます。いがめんち、けの汁、こういった郷土料理も盛りだくさんです。

青森県弘前市

## 弘前市のふるさと納税の基本的な考え方

### 弘前でしか 『見ることができない』、『体験できない』 「コト」の提供

弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしています。 TEL 0172-35-1194

さて、本題に入ります。弘前市のふるさと納税の基本的な考え方です。特産品などの“モノ”も重要ですが、それよりも何よりも弘前でしか見ることができない、体験することができない“コト”を提供することとしました。“モノ”より“コト”を提供しようという取り組みでございます。

青森県弘前市

## 弘前城天守が動く！石垣普請応援コース



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしています。 TEL 0172-35-1194

それが平成26年度に創設しました「弘前城天守が動く石垣普請応援コース」でございます。弘前市の歴史と文化のシンボルである弘前城。春のさくらまつりには国内外から約200万人を超える観光客が訪れます。その弘前公園本丸では、石垣のひずみにより崩壊の危険性が生じたため、100年ぶりの大工事、弘前城本丸石垣修理事業が行われております。この事業では約20億円を超える多額の事業費がかかります。国の交付金などを活用しましても、弘前市



には数億円の負担が必要となります。その財源調達のために注目したのがふるさと納税です。弘前市民や毎年弘前公園の桜を楽しみに来ている方々にもこの奇跡の事業をぜひとも応援してもらいたい。そして、体験してもらいたい。そのように考えました。そこで事業の実施に当たっては、単なる公共事業とするのではなく、ショーアップ化し、観光資源として全国へ発信することとしました。

この考えをもとに寄付者の方々を一口城主として、この歴史的に意義のある事業を間近で見て体験してもらえよう参加型の特典を用意しました。

青森県弘前市



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしております。 TEL 0172-35-1194

これは弘前公園の内濠です。この水がたたえられているお濠を見て、ここを歩いて下から石垣や本丸を見上げる。こんなことができると思う人は少ないと思います。

青森県弘前市

## 内濠特別内覧会



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしております。 TEL 0172-35-1194

でもご覧ください。一口城主の皆さんに実際に歩いていただきました。昨年の弘前さくらまつり開幕の前日に曳屋工事のために埋め立てられました弘前城の内濠の中を一口城主の方々に歩いてもらう、内濠特別内覧会を実施しました。これまで見る事ができなかった濠から見上げる本丸の天守や桜を楽しんでももらいました。

このイベントは一般開放に先立って特別に実施したもので、全国から518名もの参加がありました。

青森県弘前市



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしております。 TEL 0172-35-1194

続いてこちらは弘前城の天守です。高さ14.4メートル、重さは約400トンございます。これを人力で引っ張る、こんなことを考える人はいないでしょう。動くとは思わないでしょう。ところがどっこい、動きました。

青森県弘前市

## 弘前城天守曳屋



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしております。 TEL 0172-35-1194

一口城主約100人に引っ張ってもらい

ました。時間にしてわずか5分間ですが、移動距離は15センチ。この道具なのですが、市内の中学校から借りた綱引き用ロープで、まさにオール弘前体制です。

このイベントは秋のシルバーウィーク、9月20日から27日に行われ、その初日に一口城主の方を限定でご招待させていただきました。全国から406名もの参加がございました。

この天守の移動はおよそ2か月間で約77メートル引越ししました。その様子をタイムラプスで撮影したものをご覧ください。

青森県弘前市

#### 弘前市の体験型の特典

普段できない体験  
できないだろうと思っている体験を  
誰よりも早く体験してもらう



弘前市へふるさと納税してよかった

弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしています。TEL 0172-35-1194

ご紹介いたしました体験型の特典、内濠特別内覧会、曳屋ウィーク初日へのご招待は財源確保という目的だけではなく、ふるさとのシンボルである弘前城の石垣修理、天守の曳屋を身近に感じてもらうことができたと思っています。そしてなによりも普段できない体験、できないだろうと思っている体験を誰よりも早く体験してもらうことにより、弘前市へふるさと納税してよかったと実感してもらえたと思っています。

青森県弘前市

#### 弘前城石垣マルチ・プロジェクション



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしています。TEL 0172-35-1194

今後の取り組みについてもご紹介いたします。2月13日の土曜日に弘前城雪燈籠まつりが始まります。第40回を記念しまして高さ10メートル総延長140メートルを超える本丸の石垣をキャンバスに、映像作品を投影するものです。弘前城石垣マルチプロジェクション、これを一口城主の方にも2月12日、特別にご招待して試写会を開催します。優先的にご招待することとしています。本日会場にいらっしゃっている皆様も13日の土曜日、14日の日曜日、この2日間はお覧になれるので、ぜひお越しいただきたいと思います。

青森県弘前市



弘前市への「ふるさと納税」心からお待ちしています。TEL 0172-35-1194

また、未来へつなぐ千両箱タイムカプセルと題しまして、弘前城の天守に設置する千両箱をタイムカプセルに見立てて、一口城主の方の未来へ残したい思い出の品物を保管いたします。そして天守が元の位置に



戻る6年後に公開イベントを行いたいと考えています。

弘前市は新幹線も通っていないければ空港もございません。高速道路は通っていますが、市の南東部を多少かすめる程度でインターチェンジがかろうじてあるくらいのまちです。そのようなまちではありますが、弘前の魅力ある資源を活用しながら“モノ”ではない、“コト”を提供するふるさと納税をしっかり進めたいと思っております。

皆様のレトロモダン弘前市に対する熱い想い、そして来てみて体験していただくことを期待しております。

## 岩 手 県

### ふるさと岩手応援寄付の使い道

- ① 自然環境保護
- ② 伝統文化や芸術文化
- ③ 人材育成・子育て支援
- ④ 安全・安心な生活
- ⑤ いわて国体
- ⑥ 災害復旧等対策
- ⑦ **「いわての学び希望基金」**

ふるさと岩手応援寄付では、世界遺産であります平泉の伝統文化や、岩手県ゆかりの宮沢賢治や石川啄木などの芸術文化を守り育てる事業に活用したり、今年岩手県で開催されます岩手国体の事業費に充てたりするなど、全部で7つの使い道の中から寄付金の使途を選択できるようになっております。その中の一つに「いわての学び希望基金」がございます。本日は岩手県が行っているふるさと納税の使い道の一つであります「いわての学び希望基金」についてご

説明いたします。

### いわての学び希望基金

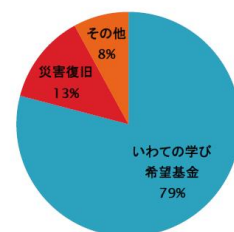
- 震災遺児・孤児のための給付金事業
- 被災地の子どもたちの修学支援・部活動支援など



「いわての学び希望基金」とは、東日本大震災津波により親を失った震災遺児孤児のための給付金事業や、被災地域の子どもたちの就学支援、部活動支援のための事業費などのために設けられた基金の名称です。平成26年度は500名を超える震災遺児孤児の方々に奨学金の給付を行ったり、1200名以上の被災地の生徒の教科書購入費の支援をしたりするなど、子どもたちの暮らしと学びを支えています。

### 使途別寄附実績(H26)

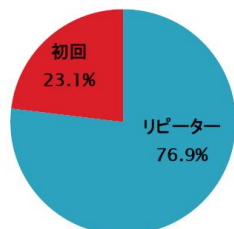
件数ベース



岩手県のふるさと納税のうち、約8割がこのいわての学び希望基金への寄付となっております。全国各地から温かいご支援をいただいております。

### リピーターの割合 (H26)

件数ベース



また、子どもたちが大学を卒業するまで長期間の支援を要するというので、多くの方々が繰り返しの寄付を申し出てくださっており、平成26年度の実績では全体の寄付のうち76.9パーセントがいわゆるリピーターの方からの寄付となっております。

そのような寄付者の方々の「寄付金全額を被災地の子どもたちのために活用してほしい」という気持ちにこたえるために、岩手県ではあえて米や肉のような特産品を返礼品としてお送りすることはせず、寄付金の活用状況や復興状況、支援を受けた子どもたちのメッセージを発信することで感謝の意を表しています。

本日は、その一環といたしまして岩手県が作成いたしましたいわての学び希望基金の動画をご覧いただきたいと思います。

#### 《動画》

[岩手県・支援を受けた子どもたちからのメッセージ動画](#)

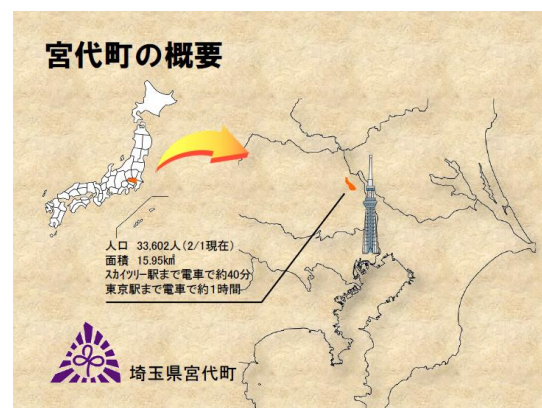
今ご覧いただきました動画は、岩手県の公式ホームページ、YouTubeでも公開しております。

まもなく東日本大震災から5年が経過いたしますが、まだ支援を必要としている子どもたちがいます。これまでの岩手県への

ご寄付に感謝申し上げますとともに今後とも全国からの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。岩手県の取り組み事例の発表とさせていただきます。

## 埼玉県 宮代町

皆さん突然ではございますが、埼玉県宮代町という町をご存知の方どのくらいいらっしゃるでしょうか。半分いかないくらいの方々は手を挙げていただいたでしょうか。そのくらいの知名度の町ということですので、まずは宮代町の紹介からさせていただきます。



宮代町は、埼玉県の東部中央部に位置しておりまして、人口は約33,000人、東京駅から電車で約1時間と都心からの通勤圏ではありますが、のどかな田園風景が広がる町でございます。広さとしては、南北に6キロ東西に約2キロという小さな町ですが、東武スカイツリーラインが縦断しており、姫宮、東武動物公園、和戸、3つの駅を中心にコンパクトな市街地を形成しております。

町内には動物園と遊園地が併設された東武動物公園や、日本工業大学、特徴的なデザインのコミュニティセンター進修館、笠



原小学校などがございます。宮代町の紹介は以上にしまして、宮代町の寄付制度についてご説明させていただきます。



宮代町では「宮代のまちづくりをみんなで応援する寄付制度」を平成20年の地方税法の改正に伴い整備しました。

町民体育祭、桜イルミネーション、ほたるの再生事業など、さまざまな取り組みをしてきましたが、それら事業のすべてが町事業、または町と市民団体が協力をして行っている事業にこの制度を活用してきました。

制度活用前は、補助金の交付など行政による市民活動支援が主流となっておりましたが、当制度を活用することで市民自身が応援したい市民活動に対し、寄付を通じて応援することのできる、つまり市民による市民活動の支援を実践できると考えました。



こうした背景があり、一つの形として出来上がったのが、山崎山のトラスト地保全活動です。当事業で整備を行った山崎山は平成13年にトラスト保全地として登録した隣接地にあったため、景観、管理ともに周辺の土地と大きくバランスを欠いた土地となっておりました。

図の緑色の部分が今回の事業で新たに整備した部分となります。この未整備部分があることによりトラスト地への行き来や管理を難しくしておりました。「昔ながらの田園風景やトラスト地を行政ではなく市民の手で未来に残す」という趣旨だけではなく、そうした活動を知ってもらうことで、そこで活動をしている里山守り隊の方をはじめとするボランティア団体の新たな仲間づくりへとつなげることを目的に寄付制度を活用していこうと考えました。

寄付をいただいた方の中には宮代町に以前住んでいたという方や事業を通じて初めて知ったという方など、さまざまありますが、事業や活動に対する熱いメッセージも多く見受けられ、担当としても共感を得られていることを実感することができました。そういったメッセージの中には、寄付だけではなく保全活動も行いたいといったものや、いままで宮代町を知らなかったがこれ

を機に一度訪れてみたい、実際に訪れたい、来てみたいというメッセージも多数ございました。

このような多くの方の共感を得ることができ、結果784人の方から940万円を超える寄付をいただき、当初の予定を大幅に上回る寄付額を集めることができました。その寄付金を使い整備された土地では、現在も埼玉県トラスト協会宮代支部が中心となり、市民と町とで下草刈りなど保全活動が継続して行われております。そうした保全活動にも町内だけではなく時には町外、県外からも訪れ、協力していただける方もいらっしゃいます。また、昨年の11月には山崎山にてトラスト祭りが開催され、里山守り隊などのボランティアの方々を中心に、ツリークライミングやクラフトづくりといった各種イベントが実施され多くの方に山崎山を訪れていただき、自然に触れていただきました。

宮代町ではこのような活動報告を町のホームページやニュースレターを通じて寄付者の方にご報告をしております。



こちらが、町のホームページの抜粋となります。左上に映っている方が里山守り隊の代表の方です。

自分たちが寄付をしたお金が実際どのような使われ方をしているのか、その変化を

具体的に報告することにより、一回限りの寄付にするのではなく、継続して宮代町の活動を見守り応援していただくことで、地域に人を呼び込んでいくことにつながり、そこで活動する人のやる気を向上させることへつながっていくと考えられます。



近年、メディアなどでふるさと納税が活発に取り上げられることが多く、お礼の品にある特産品に目が行きがちですが、ふるさと納税制度を活用していくことで特産品の生産者や町だけでなく、そこで活動している人や地域と寄付者の方をつなげることができる制度であると考えております。

それぞれが元気になり、もっとこうしよう、もっとこうしていきたい、という思いが生まれれば自然と活動が活発化し、さらなる相乗効果が生まれることができると考えており、今後も多くの方に共感をいただけるような事業を実施していきたいと考えております。

## 岐阜県 笠松町

岐阜県笠松町では、地元の高校生が町のふるさと納税を応援したいとの思いから、感謝の気持ちを込めたマークを考案し、寄付者の方に高校生の想いと共に届けていま



す。事例発表では、マークを考案した経緯を高校生の皆さんが寸劇で発表してくれました。

私たち岐阜工業高等学校デザイン工学科3年のVDチャレンジャーは、この1年様々なことに挑戦しました。前期に制作したPRポスターは、私たち10人が何度も何度も町に出てリサーチし、それぞれが自分の目で見ても肌で感じた笠松の魅力を形にしました。見ていただくだけでなく、どの作品が一番好きか皆さんに投票していただきました。題して「笠松町PRポスター総選挙」。今年の夏の選挙からは私たちも投票ができます。そこで高校生に「選挙制度改革」も訴えました。笠松町の選挙管理委員会から本物の投票箱をお借りし、8月から12月まで笠松町内のイベントや小中学校計9会場で投票を呼びかけました。



「私が訴えたのは 笠松町の 変わろうとする力の可能性」

「私が訴えたのは 若者の力になりたいというおじいちゃんおばあちゃんヒーローが笠松町にたくさんいるということ」

「私が訴えたのは 笠松町の伝統から発見したものは 栄養の素だってこと」

「私が訴えたのは 競馬場のある笠松町には 馬で散歩する日常の風景があるってこと」

「私が訴えたのは 笠松町が安心安全で毎日笑顔で暮らせること」

「私が訴えたのは 笠松町にいる一所懸命なバカの かっこよさ」

「私が訴えたのは 笠松町は おおきなひとつの家族で、自分の原点に立ち戻る ふるさとだってこと」

「私が訴えたのは 笠松町の人がドキドキする熱い気持ちには 世代の壁がないってこと」

「僕が訴えたのは 歴史を受け継ぎ その歴史を笠松町の未来に残す 優しさは強さだってこと」

「私が訴えたのは ゴールを目指すとき必ず笠松町のたくさんの人が応援してくれるってこと」

私たちがこのPRポスター総選挙で呼びかけたことは、笠松町に遊びに来てほしいという“観光”ではなく、私たちの絵を見て笠松町を感じて幸せになって欲しいという願いでした。漢字にすると、感じる幸せと書く“感幸”です。

「12月には後輩の2年生が開票作業をしてくれたね。」

「投票総数はなんと、3,968。そして第1位はVDクリーム!」「わあ!すごい!」

「ありがとう、みんな。でもね、ナンバーワンは決められない。みんな一人ひとり違う個性が出て、どれもいいってたくさんの方に言われたよ。」

「うれしかったよね。まさに、世界に一つだけのポスターだよ。」

「世界に一つだけ。なんか聞いたことが…。」

(歌) ナンバーワン～

今日、お手元にお渡しした中に私たちのポスターが入っています。私たち10人全員のポスターがポストカードになりました。ぜひご覧いただき、笠松町を感じて皆さんにも幸せになって欲しいです。

このポスターの制作はそれぞれが個人で取り組んだ課題でした。しかし、笠松町のリサーチは10人一緒に行いました。そんなある日のことです。

「みんな、笠松町について何か新しいことはわかった？」

「私は木曽川の河川敷でトンボがたくさんいるトンボ天国を見つけました。」

「昨日探検に行ったら、どこに行ってもやさしく挨拶していただきました。こんなにも笑顔があふれる街は初めてです。」

「私は年に1度の限定販売、みそぎ餅をたくさん食べました。」

「みんな！新しい情報がたくさんあるよ。」

「みんな！これ見て。」

「“ふるさとかさまつ宅配便”？なにそれ。おいしいの？」

「違うよ。これは今話題の「ふるさと納税」についての話だよ。」

「ほら、ここに「お気軽にご連絡ください」って書いてある。電話してみよう！」

「もしもし。あ～はい。わかりました」

「どうだった？」

「明日来て話してくれるって。」

翌日。

「こんにちは～。」

「本日のゲストは笠松町役場 企画課の岩田さんです。」

「じゃあ、早速、はい！笠松町に5千円以上寄付すると、お礼の品がもらえるって聞いたんですけど。」

「平成20年からお礼の品を全国にお届けしています。」

「いままでにどれくらいの数のお礼の品を送ったんですか？」

「お礼の品は約2万個送っています。」

「よく、雑誌とかインターネットとかに笠松町が紹介されてるってお母さんが言ってたんですけど、広告代っていっぱい使ったんですか？」

「広告代を出す予算がないから、無料で載せてくれるところにしか載ってないんです。」

「じゃあ、どうしてこんなにもたくさんの寄付があるんですか？」

「わからない…。でも僕たちも感謝の気持ちをたくさん届けていますし、うれしいことに4人に1人の人は毎年寄付をしてくれるリピーターさんです。」

「私、昨日行ったお店で、毎年同じ人が寄付してくれて、毎年品物を送ってるって聞きました。」

「ということは、毎年笠松町を応援してくれてるんだね。」

「それじゃあ、岩田さん、今日は貴重なお話、ありがとうございました。」

「ありがとうございました。がんばってね。」

「あ～。本当、今日はいろんな話聞けたよね。」

「私たちに何かできることないかな。」

「71もお礼の品があるなら、何か一つでも共通のものがあればいいのに。」

「あ！そうだ！共通マークを作ろう！！」

こうして私たちVDチャレンジャーは、高校生活で学んだデザインの力を使ってふるさとかさまつ宅配便共通マークの制作へと動き出しました。



「まずは形だ。」

「こういうのどう？舟！やっぱ笠松といえ  
ばでしょ。」

「形の次は色だ。」

「ね、これは？」「かわいい！」

「最後は文字だ。」

「どう、カッコよくない？これ。」

今ここではたったの30秒でしたが、実  
は3か月もかけてようやく…

「できたー！」



贈り物には「ふろしき」。昔ながらのぬく  
もりや温かさが、「ありがとう」の気持  
ちをいっぱい包みこんでいます。

2つ目は「結び」。かけがえのない出会い  
を大きく固く結ばれた風呂敷の結び目で表  
現しました。

3つ目は「清流 木曽川」。生き生きとし  
た自然の生命力や清らかな水面を柔らかな  
曲線で表現し、手書き文字を川の流れにあ  
わせて配置しました。

4つ目は町の花「桜」。笠松町からありが  
たうの想いがたつぷりと詰まって見えるよ  
う、桜色のグラデーションをかけました。

マーク完成後、私たちは笠松町長さんや  
事業者さんに集ってもらい、発表会を開  
催しました。そして、ふるさとかさまつ宅  
配便共通マークに認められ、シールになり  
ました。

「みんな、お疲れ！事業者さんたち、この  
シールを毎日貼ってくれているよ。」

「じゃあ、これでまた一つ“世界に一つだ  
けのもの”ができましたね。」

「せっかくだから、笠松町のふるさと納税  
も全国1位になってくださいよ。」

「さっき一番じゃなくてもいいって言った  
じゃん。」

(歌) ナンバーワン～

私たちが笠松町と一緒に進めてきた取組  
みを「ふるさと納税未来大賞」に選んでい  
ただき本当にありがとうございます。

今日、この会場でこの取り組みをご紹介  
できるチャンスを与えていただき深く感謝  
します。

ふるさと納税のいいところは、お礼の品  
の良し悪しだけではありません。その地域、  
そこに暮らす人、そしてその地域を応援す  
る人たち、みんなの気持ちをつなぐもので  
す。

ありがとうの言葉を直接伝えることがで  
きなくても、ありがとうの想いを一人でも  
多くの人に伝えたいです。

私たちの考えたマークで気持ちの繋がり  
が一つになり、幸せの輪がもっともっと広  
がって欲しいです。

私達チャレンジャーは、今まで誰もやっ  
たことのない挑戦をしました。この挑戦は、  
皆さんにも一歩踏み出す勇気を持ってもら  
いたいから、続けられたのです。

それは、私たちにとっても、怖いことで  
した。でも、一歩踏み出すとたくさんの人  
と出会えて、数えきれないほどの発見をし、  
かけがえのない経験ができました。

これから先、この10人は一緒に戦うこ  
とはできなくなるけど、それぞれのチャレ

ンジを続けていきます。そして、立派な社会人になって笠松町に帰ってきます。

笠松町に残って応援してくれている皆さんも合わせて、産学官で取り組む「チーム笠松町」でした。ありがとうございました。